

第15回全道少年(U-10)8人制サッカー大会北北海道大会 準決勝・決勝 戦評

<準決勝> **Faminas** (旭川地区) VS 北海道コンサドーレ釧路U-12 (釧路地区)
1-1 (0-0、1-1、0-0、0-0、PK2-3)



前日の雨も止み、爽やかな青空が広がった最終日。Aコートで行われた準決勝は **Faminas** (旭川地区) と北海道コンサドーレ釧路U-12 (釧路地区) のカードとなった。

コンサドーレのキックオフで始まった前半。1分、ピッチ中央でボールを受けた⑪から⑨にスルーパスが通り、この試合最初のシュートを放つもGK正面。対する **Faminas** は2分、GKからのロングフィードに反応した⑤が抜け出すもシュートは打てず。**Faminas** は5分にも右サイド④が抜け出し惜しいシュートを放つと、コンサドーレも直後に左サイド⑦から右サイド⑨に好パスが通りゴールに迫る。一進一退の攻防が続く中、前半終了間際には両チームともにチャンスを作る。



11分、コンサドーレはスルーパスに反応した⑨が強烈なシュートを放つも、相手GKの好セーブに阻まれる。12分、**Faminas** は右サイド⑥が狙いすましたインターセプトでペナルティエリアに侵入し、こぼれ球を⑧が遠目から狙うも、GKがキャッチし前半が終了する。

ハーフタイム、コンサドーレベンチは「いつもやっているつなぐサッカーを」と確認し、**Faminas** ベンチは「サイドからの攻撃を狙っていこう」と声をかける。

更に気温が上昇した後半戦。序盤は前線から積極的にプレスをかけた **Faminas** が押し込む展開となるが2分、**Faminas** ゴール前のルーズボールに対してあきらめずに飛び込んだコンサドーレ⑩が押し込み、コンサドーレが待望の先制点をゲットする。これで、試合は一気にコンサドーレペースになるかと思いきや、直後に **Faminas** は右サイドの⑥がスピードに乗ったドリブルで一気に駆け上がりクロスを送ると、ファーサイドの⑤が落ち着いたコントロールから見事なシュート。ベンチの思惑通りのサイド攻撃が決まり、すぐさま同点に追いつく。追いつかれたコンサドーレは6分、こちらもハーフタイムで確認した通り、GKからビルドアップを始め、⑩→⑥→⑪ときれいにパスがつながりゴールに迫るもシュートは打てず。 **Faminas** もGKを含めて



の攻撃を展開し、㉘から⑥へスルーパスが通るも、クロスは味方選手に合わず。11分、C Kのチャンスを得たコンサドーレは、ショートコーナーから放ったシュートがG Kを破るも、カバーに入った相手D Fがクリア。終了間際には Faminas がC Kを得ると、高精度のボールに対し⑥が素晴らしいタイミングでヘッドで合わせるも、シュートはクロスバーを直撃し、そこで後半終了。試合は延長戦に突入する。

延長戦に入ると、慣れない暑さの影響からかコンサドーレの運動量が落ち、Faminas が主導権を握る。延長前半1分、C Kを得た Faminas は⑩が頭で合わせるもゴールから外れる。3分にも再びC Kを得るが、コンサドーレの守備陣が身体をはってブロックする。延長後半も Faminas の運動量は落ちず、2分には⑤が切れ味鋭い突破からG Kを破るシュートを放つも、戻ってきたコンサドーレD Fが懸命のクリアでゴールを死守し、延長戦が終了。勝負はP K戦へと持ち込まれた。

P K戦も互いに高いキック精度を見せるが、全員が成功して迎えた Faminas 3人目のキックが無情にもポストに当たり、激闘に終止符が打たれた。

コンサドーレはG Kを含めて丁寧にボールをつないで意図的にチャンスを作り出すシーンが多々あり、個人技術・チーム戦術の質の高さを感じることができた。また、Faminas は豊富な運動量を生かして前線からプレスをかけ、相手の選択肢を限定したところで2ndD Fがインターセプトを成功させるシーンが多々あり、良い守備が良い攻撃へとつながっていた。決勝戦進出チームを決める試合にふさわしい、質の高い好ゲームであった。



(文責 十勝少年サッカー連盟 喜多 翼)

<準決勝> プログレッソ十勝F C (十勝地区) VS S C釧路 (釧路地区)

1-0 (0-0, 1-0)



前評判の高かった両チームによる準決勝。プログレのキックオフで試合が始まる。

試合序盤、⑬のドリブル突破からチャンスを作るS C釧路。一方プログレも素早い寄せでシュートを許さない。2分、S C釧路は、⑬からパスを受けた⑩が、ダイレクトシュートを打つも、プログレG Kに阻まれる。⑬の対応に慣れてきたプログレは、チャレンジ&カバーでピンチの芽を摘む。攻撃では、ピッチを広く使いボールを動かし始める。5分、プログレは、オーバーラップした⑤



に⑦がパスをつなぎコーナーを得る。そのキックを頭で合わせるがゴールを奪うことはできない。更に、攻撃を仕掛けるプログレは、⑩を起点にボールを動かしてS C 釧路ゴールに迫るが、S C 釧路の体を張ったディフェンスに阻まれる。その後も、FK、CKからあわやというシーンを作るプログレ。S C 釧路も、⑬が何度か突破を図るが、プログレDF陣の固い守備に阻まれる。



ハーフタイムでは、フリーになりそうなところから攻めよう（プログレ）。中盤でボールを取られてピンチになる場面はあるが、やれるぞ、いけるぞ（S C 釧路）。と声がかかる。

後半、S C 釧路はキックオフの直後、⑧のドリブル突破からチャンスを作り⑩がシュートを打つも、プログレDFにブロックされる。試合が動いたのは後半2分、プログレは、中盤でボールを拾った⑩がねらい澄ました縦

パスを⑨に入れる。抜け出した⑨がゴールに右隅にシュートを決め先取点を奪う。その後も攻撃を仕掛けるプログレに対し、S C 釧路も⑬にボールを集めようとするが、プログレの鋭い寄せにパスが繋がらない。7分、S C 釧路⑩のシュートも、プログレGKがはじく。直後のCKを⑬が頭で合わせるが枠をとらえることはできない。7分、S C 釧路⑦のロングシュートにも、プログレGKがしっかりと対応する。試合終盤、攻防は激しさを増す。プログレは、コーナーキックのチャンスから⑩がヘッドで合わせるがボールは右ポスト直撃。こぼれ球を拾った⑧が強烈なシュートを打つがバーを超える。S C 釧路も、最後まであきらめることなくプログレゴールを目指すが、試合終了のホイッスルが鳴る。

この準決勝、互いに集中力を切らさず、最後まで粘り強くプレーを続けた姿が印象に残った。惜しくも敗れたS C 釧路は、アクシデントによる中心選手の途中交代が悔やまれるが、ベンチワーク含めチーム全体で戦う姿が印象に残った。今後の活躍を期待したい。



（文責 十勝少年サッカー連盟 喜多 進）

<決勝> 北海道コンサドーレ釧路U-12 VS プロGRESS十勝FC

1-2 (1-2, 0-0)



しっかりとボールをつなぎ、攻撃的なサッカーで勝ち進んできた両チーム。ドリブルとパスを駆使し、多くの得点シーンを作ってきたコンサ釧路か、⑩を中心にピッチを広く使い全員がボールに関わりながら相手ゴールに迫るプログレか。両チームの大応援団はじめ、すでに試合を終えたチームの選手たち、大会関係者が見守る中、プログレキックオフで試合が始まった。

試合の立ち上がりは、前からボールを奪いに来るコンサ釧路がペースをつかんだように見えたが、先制点を奪ったのはプログレだった。2分、相手ボールを奪ったプログレが速い攻撃を仕かける。トップの位置でボールを受けた⑨が、2列目から飛び出してきた⑩にタイミング良くパスをつなぎ、⑩が落ち着いて先制のゴールを決める。3分、コンサ釧路⑥のシュートは、惜しくもゴール右へ。4分、コンサに決定機が訪れる。⑩のドリブルから



からタイミング良く⑩へパスをつなぐが、プログレGKの思い切りの良い飛び出しに阻まれる。お互い攻守の切り替えが速い好ゲームとなる。6分、プログレ⑩がドリブルから技ありの浮き球パスをコンサDFの裏に出す。走り込んだ⑦が相手GKの立ち位置をしっかりと見て、左足でシュートを決める。7分、コンサは、⑪の個人技からプログレゴールに迫り、ゴール前の混戦からのこぼれ球を⑦が落ち着いて決め2-1とする。前半終了間際、プログレは、CKのボールに⑪が頭で合わせるがポストに嫌われる。

ハーフタイム、コンサ釧路は、シュートを焦らないこと。プログレは、跳ね返したボールにもう一度体を寄せよう。と声がかかる。

後半開始早々、コンサのクリアボールを拾ったプログレ⑩が、ミドルシュートを放つ。その後も、プログレは、⑩→⑨→⑦とつなぎゴールへ迫る。コンサも体を張り、フリーではシュートを打たせない。一方、コンサも何度かミドルシュートを狙うが、やや距離が遠い。両チームとも、ドリブルで仕かける場面が増えてきたが、狭いエリアに入っていくのでなかなかシュートチャンスを作れない。コンサベンチからは、「シュ



ートの判断を早く。」と、プログレベンチからは、「しっかり守ってからのカウンターがチャンス。」と声かけられる。ファールも少なく、簡単なクリアで逃げる場面も少なく、決勝戦にふさわしい白熱したゲームとなった。7分、プログレは、⑩と⑨とのワンツーでシュートを打つも、コンサGKの正面に。

9分、プログレ⑩の狙い澄ましたミドルシュートは枠を捉えたが、コンサGKの素晴らしい反応にゴールを割ることはできない。その後も、激しい攻防が続くが、プログレに歓喜の優勝の瞬間が訪れる。

見事な戦いぶりで2度目の優勝を飾ったプログレッソ十勝。⑩のキープ力、正確なパスだけでなく、チームとしてボールを奪う意識の高さ、連動した動き、何よりボール際の強さ、身体の使い方はこの年代としては圧巻だった。十勝少年サッカーに関わる一員として、たいへん勉強になった。今後もこの年代の各チームの目標となる存在であり続けてほしい。

一方、惜しくも敗れたコンサ釧路であったが、広くピッチを使ったプレー、決して縦に急ぐことなく人数をかけて相手ゴールを目指すサッカーは、多くの指導者の参考になったはずである。残念ながら、決勝戦の後半は、やや縦を急いでしまった感は否めないが、この悔しさを糧に今後更に成長してくれることを期待している。SC釧路と共に、釧路地区のレベルを更に高めていくことになるだろう。

ここ数年、北北海道大会では、縦に速いチーム、圧倒的な個の力で局面を打開する選手がいるチームが上位に入る傾向が続いたが、今年は、最終日に残った4チームとも、しっかりとボールをつなぎ、ピッチを広く使うことを意識し、GKを含めた8人でボールを運ぼうとしている姿が印象に残った。

最後になりますが、暑い中、最終日の撤収作業に協力していただいた地元チームの後援会、並びに関係者の皆さんに感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

(文責 十勝少年サッカー連盟 喜多 進)



第15回全道少年U-10サッカー北海道大会
開会式・選手宣誓 (御影サッカー少年団主将)







第3位 Faminas (旭川地区代表)



第3位 SC 釧路 U-12 (釧路地区代表)